

## 第7回 公立能登総合病院協議会 記録

【日 時】 平成22年11月8日（月） 午後3時より午後4時55分

【場 所】 公立能登総合病院 会議室（3階）

【出席者】 21名（委員10名、当院 8名、事務局 3名）

（委員） 松木会長、池島副会長、蔵谷委員、小林委員、佐原委員、清水委員、高瀬委員、橋本委員、平山委員、宮野委員

（当院） 川口事業管理者、藤岡病院長、池野副院長、永島経営本部長、中村総務課長、出村管理課長、北川患者サービス課長兼医療情報課長、勢田地域医療連携部副部長

（事務局）土倉主幹、羽石主任、森口主事

### 【内容】

#### 1 開会のあいさつ

##### ＜川口病院事業管理者＞

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

病院協議会ということで地域の皆様と病院とがもっともっと深い繋がりを持っていきたいという考えで病院協議会を開催しております。しかしながら、もともとの病院は公的な病院であり、地域の方々の意志で作られた病院ということでもありますので、いってみれば地域の方々の病院であると私たちも思っております。

そういう意味で、この病院は一時期経営的に少し苦しい時がありましたが、少しずつ良い状況になってきました。これからは本当に地域の方々のために質の高い医療を提供していきたいと考えておりますので、本日は忌憚のないご意見をいただきまして、本当に地域と病院が手を取り合っていけるようになりたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

#### 2 委員の改選

松本委員（袖ヶ江保育園保護者会会長）→宮野委員（ななおあいじ保育園看護師）

#### 3 報告事項

##### ＜松木会長＞

昨年、会長をしております松木です。どうぞよろしくお願ひいたします。

実は、10月31日に病院フェスタがありました。私は昨年もこのフェスタに参加しました。大変充実しており、先ほど川口病院事業管理者からお話しがありましたとおりに住民とのつながりを本当に大切にしている地域に開かれた病院であると感じました。本日はせっかくの機会ですので、皆様のご忌憚のない建設的なご意見をいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

#### （1）公立能登総合病院の経営状況について

##### ●経営改革の取り組み

- ・平成12年の3月に200億円の建設費をかけて新病院を建設しましたが、平成17年には14億円という赤字となり経営改革に取り組みました。その結果、平成21年度は3,300万円あまりの黒字となりました。
- ・私たちは最新最高の医療を、安全に提供する公的医療機関として、能登全域の住民の健康を守るという理念をかかげています。これは、能登病院だけが良くなればよいという狭い考えではなく、能登地域全体を見据えた医療に取り組もうと考えております。

##### ●能登地域の医療の現状

- 能登地区における100床以上の病院は珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院、町立富来病院、恵寿総合病院、公立羽咋病院、国民健康保険志雄病院があります。
- 能登地区の大きな問題として少子高齢化現象があり、平成18年度の県の資料によると人口動態は「南高北低」と称され、能登北部の65歳以上の高齢化率は35%近くになっており、能登中部においても25%を上回るような高齢化率となっております。
- 能登北部4自治体病院（珠洲市総合病院、公立宇出津総合病院、市立輪島病院、公立穴水総合病院）のそれぞれの医師数は12人～16人程度で、看護師数も67人～111人となっております。医師数は全部で57人、看護師数も380人となっております。当院は医師56人（研修医を含む）、看護師345人で能登北部4自治体病院と同じくらいの職員数となっております。
- 今年度戦略プロジェクト
  - 地域医療支援病院対策PT
    - 紹介率30%、逆紹介率50%を目標にして取り組んでいるが、実際は程遠い状況であります。
    - 地域医療支援センター（仮称）は今年度末に設置を予定しております。
    - 紹介患者優遇制度については、まだ手がついておりません。
  - 定数条例改編PT
    - 人は病院にとって資産であるとの考えのもと、必要などころには必要な人材を投入していけるよう、3月議会での承認を目指して現在検討中です。
  - 医薬品のSPD化PT
    - 医薬品を診療材料と同じようにSPD化するために、プロポーザル方式で業者を選定しました。今後は、運用面の検討していく予定です。
  - 診療収益向上対策PT
    - 外来迅速検体検査加算
      - 前年度に比べ、今年度は2倍近くの加算を取得できています。
    - 午前中からの手術開始体制の確立
      - 医師の負担軽減のために、午前中からの手術を増やす取り組みを行っており、現状では20%前後で増加傾向にあります。
    - 急性期看護補助体制加算
      - 6月から75対1の基準を取得しましたが、来年度からは50対1の基準取得に向け準備をしております。
    - 医師事務作業補助体制加算
      - 現在、50対1の基準を取得しておりますが、来年度は25対1の基準を取得する方向で検討しております。
- 今年の経営状況
  - 酷暑の影響を受けて、病床利用率85%以上と高い水準を維持しております。
  - 精神センターでも同じように8月の病床利用率が88.7%と高くなっております。
  - 今年度上半期の実績について、医業収益は37億3,851万円であり、対前年度比では、2億5,233万円の増収となっております。
  - 今年度の収支予想について、費用は前年度に比べて約3億円の増額が見込まれます。収入はこのまま推移すれば、前年度に比べて約5億円の増額となりますので、1億円以上の黒字が予想されます。
  - 2010年診療報酬改定の影響
    - 全国的に見ると4.1%の収入増加になっていますが、400床～600床の病院においては、6.5%の収入増加となっております。当院は、7.2%の収入の増加があり、大変良い成績となっております。
- 次年度以降の問題
  - 退職金の問題
    - 医師を除く退職予定者は平成23年度は5名ですが、平成24年度からは毎年10名弱の方が退職される予定ですので、毎年2～3億円の退職金が必要となります。

- ・医療器械の更新・新規購入の問題  
放射線治療装置、核医学検査装置、注射薬自動払出装置（アンプルピッカー）、X線CT装置などを更新していく予定です。また、次々年度以降については、手術用ロボットの購入についても検討していきたいと思っております。
  - ・職員増員による駐車スペース不足  
病院正面左手の浄化槽の周りを駐車場に整備することを計画しております。
  - ・在宅支援部と地域医療連携室の統合、医療秘書の増員とスペースの確保  
コンピックの撤去跡での対応を計画中であります。
  - ・内視鏡室、透析室や精神センター外来のスペースが狭いなど、問題箇所が多くなってきました。
  - ・職員向けのスペース確保の問題  
会議室が狭い、職員休憩室が狭い、職員専用食堂もない、委託職員の更衣室がプレハブになっている、など多数の改善が必要となってきました。
- 今後の目標
- ・経営安定、徹底した職員満足の向上、地域住民が信頼できる医療の展開をするため、「全員経営・全員医療」を行うことを目標としていきます。

#### <佐原委員>

地域医療支援センター（仮称）というのは、具体的にどのようなことを行っていくのですか。

- 当院には、在宅支援部があり、メディカルソーシャルワーカー（MSW）と訪問看護を行う看護師の方が一緒に部署で仕事をしております。また、地域医療連携室では、地域の先生方との連携の仕事をしております。この2つの部署を、一つに統合して、より連携の取れた仕事をしていくようにしたいと思っております。

地域医療支援センター（仮称）では、医師との関わりのなかで在宅医療も行っていきますか。

- 在宅医療は、医師との関わりが大切です。受け入れ施設も一杯ですので、在宅にシフトし、在宅になっても安心できるような取り組みをしたいと考えております。

紹介患者優遇制度というのは、具体的にどういったことですか。

- 紹介患者さんが外来に来られた時に、優先的に案内をする人を配置したいと思っております。こうした取り組みは少しずつ始めていますが、まだ本格的に導入しておりません。

#### <高瀬委員>

新病院建設から10年ということですが、私が勤務している七尾東部中学校は建設から19年経ちました。19年も経ちますと色々な箇所の修理が必要となってきます。しかし、修理をするにも部品を作っていないなどの問題が発生しております。能登病院ではどのように対応しておりますか。

- 確かに10年経ちまして、特に各メーカーから電子部品などの供給ができないなどと言われております。各メーカーに10～15年の修理計画を作成してもらい、それを基に毎年予算化しております。

#### <高瀬委員>

医療費の未納の方がかなりいるとお聞きしたのですが、そのあたりはどうかのですか。

- 当院の9月末現在の過年度医業未収金は、3,900万円となっております。

#### <松木会長>

過年度医業未収金の額は、多い方ですか、少ない方ですか。

- 毎月の患者さんの医療費個人負担金の取り扱いは約1億円で、年間約12億円程度発生します。それに対する過年度医業未収金3,900万円が多いのか少ないのか

かという判断はできませんが、回収率は99%を超えております。

#### <平山委員>

今後、職員の増加など、どうしても職員給与費が多くなると、経営に与える影響が大きくなると思うのですが、医業収益に対する職員給与費の割合がどれくらいまで耐えられるとお考えですか。

- 公的病院のなかでも院外処方をしている病院としていない病院とでは、医業収益に対する職員給与比率は違ってきます。当院は院外処方をしている病院でありますので、医業収益に対する職員給与比率が55%以内なら大丈夫だと考えております。また給与費とは別に、業務委託の委託料についても、ある意味給与費と同じでありますので、委託職員が増えるのであれば、もっと医業収益に対する職員給与比率を下げる必要があると考えております。

#### (2) 医師・看護師の確保状況について

##### ●医師の人数

- ・平成18年度は医師39名、臨時医師4名、研修医4名で合計47名となっており、平成22年度では、医師46名、臨時医師5名、研修医4名で合計55名となっております。総数としては8名の増加で、正規の医師は7名の増加となっております。
- ・23の診療科の中に医師が1人の科もありますので、複数の医師を配置し、医師の負担を軽減していきたいと考えております。また、医療秘書や看護補助者を増員し医師や看護師の負担を減らしていきたいと考えております。

##### ●看護師の人数

- ・平成18年度は正規看護師308名、臨時看護師8名で合計316名となっており、平成22年度では、正規看護師306名、臨時看護師45名で合計351名となっております。総数としては35名増えておりますが、正規看護師は増えておらず、臨時看護師が増えております。これは、病気休暇、産前産後休暇、育児休暇を取得する看護師が増えており、現在約35名が取得中です。その不足分を補うために臨時看護師が増えてきています。
- ・臨時看護師については3交代での夜勤をなかなか勤務してもらえないなど、夜勤をする看護師が不足する厳しい状況が続いています。そのため、毎年20～30名の募集を行いながら、看護師の増員を目指しております。
- ・平成20年2月から実施した、7対1看護に伴い、看護師数は増えておりますが、臨時看護師が増加していることもあり、定数条例の改定を含めて、正規看護師が330名を確保できるよう努めていきたいと思っております。

#### <佐原委員>

看護師306名の中には休暇中の人も含められているのですか。

- 含まれております。

7対1看護を行ううえで、看護師数はどのような状況ですか。

- 臨時看護師を含めてギリギリのところで行っております。
- 直近1年間の入院患者数に対しての7対1になりますので、今年の夏のように入院患者数が多いと、予定していた看護師の数では難しくなってきます。逆に入院患者数が少ないと余裕ができますが、なかなか厳しい状況であります。

#### <平山委員>

看護師の確保に尽力しておられるとのことですが、数年前から行っている学生に対する支援などへの利用はありますか。

- 看護学生に対する修学資金は、当初予算である程度の人数を見込んでおりますが、毎年、予算を補正しながら対応しております。来年度採用の看護師13人のうち9人が修学資金を受けた方となっております。

#### <松木会長>

今年は麻酔医の確保ができましたか。

- 現在、麻酔医は県外から1名の常勤の先生が来ておられます。また、金沢医科大学の先生が週2回（月曜・火曜）、浅野川総合病院の先生が週2回（木曜・金曜）、その他月に1週間東京から愛媛大学出身の先生がご厚意で来ていただいております。

しかし、常勤の先生が今年度いっぱいでお辞めになる予定ですので、金沢医科大学の麻酔科に数ヶ月間毎の交代でもかまわないので、常勤の先生を1名派遣してもらいたいと、先日お願いに行ってきたところでもあります。派遣に関する返事はもう少し待っていただきたいとのことでした。

#### <橋本委員>

先ほど、人口動態のお話があったのですが、実際に65歳以上の団塊の世代が5～10年後に医療のサービスを受けるとなった時に、能登病院の全ての科に医師を配置するのではなく、地域の必要なところに重点的に医師を配置していった方が良いのではないですか。

- 当院は急性期病院であり、急に悪くなった患者さんを集中的に治療する病院であります。現在は、症状が落ち着いた後の、回復期の病院や在宅医療などへの受け入れがうまく機能しておりません。この地域全体で、そういったことがうまく機能することができるようになっていけたらと考えております。

#### <佐原委員>

医師会でも地域全体での機能分担のことを考えておりますが、介護療養型病院などは、政府の方針がなかなか決まらないことなどから、うまくいっていないのが現状です。

ただ施設や病院だけではうまく機能しないので、在宅医療についても勉強をしていこうと考えております。先ほど地域医療支援センターについて質問をさせていただいたのはそのためであります。

この問題は能登病院だけでなく、七尾市、医師会などを含めて取り組んでいくことが必要であると考えます。

#### <松木会長>

昨年七尾市の高齢化率は30.5%となっております。特に高いのが御祓地区であります。もちろん、高階地区や崎山地区なども高いですが、市街地でもそういった状況であります。

## 4 協議事項

### (1) 公立能登総合病院改革プランの進捗状況について

#### I 公立能登総合病院改革プランの概要

##### 1 改革プラン策定の背景

全国の公立病院の8割が赤字経営であることを受けて、政府が平成19年12月に「公立病院改革ガイドライン」を公表し、改革プランを策定するよう要請しました。

当院では、平成17年度に「経営改革のシナリオ」を策定し、平成18年度から経営改革に取り組んできました。このような中で、「公立病院改革ガイドライン」が公表されたこともあり、「経営改革のシナリオ」をさらに継続・発展させた計画として「第2次経営改革のシナリオ」を策定しました。

##### 2 当院が果たす役割及び一般会計負担の考え方

当院は、公立病院として、救急医療、精神医療、へき地医療などの政策医療・不採算医療に取り組んでいます。

また、現在の診療科を維持しながら、地域医療連携を推進し、急性期病院として入院診療を充実し、外来診療のスリム化を進め、「地域医療支援病院」を目指します。

一般会計からの負担金については、総務省の「地方公営企業繰入金について」に定められている項目を基準とし、繰入額は構成市町である七尾市と中

能登町と協議をしています。

### 3 経営の効率化

#### (1) 改革プラン対象期間の収支計画

経営改革のシナリオについては、平成21年度から平成23年度までとなっておりますが、平成18年度、19年度は参考として記載してありません。

#### (2) 経営指標に係る数値目標

これらは、主に財務内容に係る数値目標となっております。

#### (3) 目標達成に向けた取り組み

- ①民間的経営手法の導入
- ②収入増加・確保対策
- ③事業規模・形態の見直し
- ④経費削減・抑制対策
- ⑤医療の質と病院機能の向上

#### (4) 能登中部医療圏における公立病院の再編・ネットワーク化

石川県では石川県医療計画に基づき、医療圏ごとの公立病院等の医療連携体制のあり方を示す「再編・ネットワーク構想」を平成22年度までに策定することになっていきます。

当院では、この構想に基づき平成23年度に再編・ネットワーク化への対応計画を策定することとなっております。

#### (5) 経営形態の見直し

当院では、平成19年度から、経営形態を地方公営企業法全部適用に移行し、より広く、より強い権限を持った病院事業管理者を設置し、自律的な改革を推進してきました。その結果、単年度赤字額を大幅に圧縮し、キャッシュフローが黒字へと転化するなど、地方公営企業法の全部適用によって、所期の効果が達成されつつあることから、引き続き現在の経営形態により、一層堅実で安定的な経営の確立に努めていくことにしております。しかし、今後、継続的に安定した経営が困難と予測される場合については、地方独立行政法人（非公務員型）等への経営形態の移行についても柔軟に対応していく予定です。

#### (6) 改革プランの評価と見直し

改革プランの実施状況については、年1回以上点検・評価をすることになっていきます。当院では、この「病院協議会」で点検・評価を行うことになっていきます。

## II 平成21年度決算の状況

### 1 決算の概要

平成21年度では度重なる診療報酬のマイナス改定など引き続き厳しい状況でしたが、電子カルテシステムの整備による診療情報の共有化、チーム医療の推進など積極的に取り組みました。

また、昨年度策定した「公立能登総合病院改革プラン」を強力に推進し、持続可能な健全経営の確立を目指すとともに、「地域に開かれた病院づくり」の一環として、病院フェスタを開催し、地域住民の健康と福祉の増進に努めました。

その結果、平成21年度病院事業会計の決算は、医業収益の増加により、昨年度に引き続き経常収支の黒字化を果たし、10年ぶりに3,314万余円の純利益を計上しました。

資本的収支では、電子カルテシステム等の器械備品38品目の購入、リハビリテーション部の増築、企業債元金の償還（返済）、看護師確保対策として看護学生へ修学資金の貸与を行いました。

企業債（借金）については、平成12年度には180億円近くありましたが、平成21年度には135億まで減ってきております。

### 2 損益計算書

事業収益	8,063,516,381円
事業費用	8,030,371,079円

	当期純利益	33,145,302円
3	資本的収支	
	資本的収入	606,348,000円
	資本的支出	1,131,224,104円
	収支差引額	▲524,876,104円
	資本的収入が資本的支出に不足する額524,876,104円は、減債積立金及び損益勘定留保資金等で補填。	
4	一般会計からの繰入金	
	企業債元利償還金や救急医療の確保などの経費に対して、一般会計から繰入された金額は七尾市、中能登町合わせて	
	収益的収入（病院運営費）	664,711,000円
	資本的収入（企業債償還金）	197,324,000円
	合計	862,035,000円
5	貸借対照表	
	資産	15,992,691,562円
	負債	528,570,200円
	資本	15,464,121,362円
	負債・資本計	15,992,691,562円
6	現金預金残高	
	平成12年度において現金預金残高は32億円ほどありました。平成19年度には13億円まで減少しましたが、平成21年度には15億円以上にまで増加しております。	
7	患者数の状況	
	入院患者延	129,143人（昨年度比 1,496人）
	外来患者延	234,335人（昨年度比 ▲8,240人）
	入院患者の増は、医師等の増員により入院患者の受入体制が強化されたことが主な要因として考えられ、外来患者の減は、地域医療連携の推進による開業医等との機能分担が進んだものと考えられます。	

### Ⅲ 改革プランの進捗状況

1	目標達成に向けた取り組みの状況			
	(1) 民間的経営手法の導入			
	①経営分析・経営診断の実施			
	・診療科別原価計算による分析の開始			
	・DPC分析の開始			
	(2) 収入増加・確保対策			
	①医療業務のIT化推進			
	・電子カルテシステムの導入			
	②地域における医療連携の推進			
	・紹介率	17.8%	(昨年度	12.6%)
	・逆紹介率	20.9%	(昨年度	19.2%)
	③在院日数の適正化			
	・平均在院日数	16.4日	(昨年度	15.8日)
	④病床利用率の確保			
	・病床利用率<一般>	84.2%	(昨年度	83.1%)
	・病床利用率<精神>	76.1%	(昨年度	75.4%)
	⑤医師の招聘・看護師の確保対策			
	・職員数 <医師>	53人	(昨年度	48人)
	・ " (うち研修医)	7人	(昨年度	6人)
	・ " <看護師>	339人	(昨年度	325人)
	・修学資金貸与者<看護師>	15人	(昨年度	9人)
	・ " (うち入職者)	6人	(昨年度	2人)
	⑥診療報酬制度への適切な対応			
	・入院時医学管理加算の取得			
	・麻酔管理料の取得			

- ・医師事務作業補助体制加算 75 : 1 の取得
- ⑦未収金の発生防止と早期回収
  - ・個人未収金額（5月末現在） 43,941,202円
  - 昨年度（5月末現在） 45,307,895円
- ⑧所有財産の有効活用
  - ・旧第二病院跡地貸付料 5,900,291円
  - 昨年度 925,767円
- (3) 事業規模・形態の見直し
  - ・回復期リハビリテーション病棟への移行は検討していない。
- (4) 経費削減・抑制対策
  - ①人件費の適正化
    - ・管理職手当の10%削減（平成18年度～）
  - ②在庫管理の効率化（SPD方式の推進）
    - ・SPD品目数割合<診療材料> 44.4%
  - ③業務委託、設備保守管理等の契約見直し
    - ・調理部門の全面委託を実施
  - ④ジェネリック医薬品の利用促進
    - ・薬品品目数割合<ジェネリック薬品> 6.0%
- (5) 医療の質と病院機能の向上
  - ①第三者機関による外部評価の推進
    - ・医療機能評価の認定<病床複合版:一般・精神Ver5.0><救急医療機能>
  - ②人事管理制度の充実
    - ・職員目標達成評価制度の実施<全職員対象>
  - ③戦略的思考の醸成
    - ・BSCによる全員参加型の病院経営の実践
  - ④患者サービスの向上
    - ・ケーブルテレビでの病院番組の放映<七尾市、中能登町>
    - ・病院フェスタの開催
    - ・出前講座の開催 23回（昨年度 21回）
    - ・参加人数 920人（昨年度 895人）
  - ⑤その他
    - ・休日リハビリテーションの実施
    - ・MRI装置の更新
    - ・X線循環器診断システムの更新

## 2 収支計画との比較

### (1) 収益的収支

#### ●平成21年度見込みと実績の比較

・経常収益	(見込 8,114百万円)	(実績 8,063百万円)
・経常費用	(見込 8,102百万円)	(実績 8,030百万円)
・経常損益	(見込 12百万円)	(実績 33百万円)
・純損益	(見込 12百万円)	(実績 33百万円)
・経常収支比率	(見込 100.1%)	(実績 100.4%)
・医業収支比率	(見込 97.3%)	(実績 97.6%)
・職員給与費対医業収益比率	(見込 55.7%)	(実績 55.5%)
・病床利用率(一般)	(見込 84.2%)	(実績 84.2%)

### (2) 資本的収支

#### ●平成21年度見込みと実績の比較

・資本的収入計	(見込 534百万円)	(実績 606百万円)
・資本的支出計	(見込 1,125百万円)	(実績 1,131百万円)
・補填財源計	(見込 591百万円)	(実績 525百万円)

## 3 経営指標に係る数値目標の達成状況

### (1) 財務内容の改善に関するもの



①経常収支比率	(目標	100.1%)	(実績	100.4%)
②医業収支比率	(目標	97.3%)	(実績	97.6%)
③職員給与費対医業収益比率	(目標	55.7%)	(実績	55.5%)
④材料費対医業収益比率	(目標	21.0%)	(実績	22.0%)
⑤病床利用率(一般)	(目標	84.2%)	(実績	84.2%)
⑥患者一人当たり診療収入				
・一般(入院)	(目標	42,378円)	(実績	41,808円)
・一般(精神)	(目標	11,000円)	(実績	10,824円)
・精神(入院)	(目標	14,731円)	(実績	14,803円)
・精神(外来)	(目標	6,300円)	(実績	6,317円)
(2)医療機能確保に関するもの				
①一日平均入院患者数				
・一般	(目標	278.0人)	(実績	277.7人)
・精神	(目標	75.0人)	(実績	76.1人)
②一日平均外来患者数				
・一般	(目標	830.0人)	(実績	828.7人)
・精神	(目標	140.0人)	(実績	139.6人)
③臨床研修医数	(目標	6人)	(実績	7人)

#### 4 まとめ

経常収支や医業収支については、計画額を上回り、経常収支では計画額を21百万円上回る、33百万円の経常利益となりました。

財務内容の改善に関しても数値目標の達成状況については、経常収支比率、医業収支比率、職員給与費対医業収益比率、病床利用率で目標値を上回ることができましたが、材料費対医業収益比率、患者一人当たりの診療収入については、目標値を達成することはできませんでした。

また、医療機能確保に関する数値目標については、一日平均入院患者数、一日平均外来患者数、臨床研修医数でほぼ目標値を達成することができました。

#### <佐原委員>

一般会計からの繰入金のうち収益的収入で七尾市と中能登町から6億6,400万円とありますが、これは収益的収入のどこの科目に入るのですか。

→ 「医業収益、他会計負担金」と「医業外収益、他会計負担金」に入ります。救急医療に対する分は医業収益に、その他の目的に対する分は医業外収益に入ります。

看護師修学資金についてなのですが、貸与者が15人に対して入職者が6人というのはどういうことですか。

→ 貸与者の15人とは、看護学校に在学している方々の人数であり、入職者6人とは卒業して入職した方々の人数です。

年間何人を目安に貸与しているのですか。

→ 当初は10人程度を予定しており、そのうち新規は5人程度を考えておりました。しかし、少しずつ多くなってきて、現在は、24名に貸与しております。

貸与者の内訳ですが、高校1年生などは少なく、専攻科になるにつれて、人数が多くなってきます。また、田鶴浜高校だけではなく、他の専門学校の方々にも貸与しております。貸与者のうち来年度、入職される方は9人となっております。

#### <平山委員>

改革プランの取り組みの中で、医業収入が減っているのに、材料費が上がっているのはなぜですか。

→ これは院内処方が多くなっているためであります。院外処方を始めたころは、院外処方率は95%でありましたが、現在は80%となっており、院内処方が増えて

きたため、材料費が増額してきております。

当初は、何が何でも院外処方という形で取り組みましたが、患者さんのニーズに応えるため、歩くことが困難な患者さんなどについては、院内処方を行っています。

#### <松木会長>

ジェネリック医薬品の使用状況について、私たちの地区にも、薬局からの説明会があったのですが、能登病院ではどのような取り組みをしていますか。

→ ジェネリック医薬品の取り組みについては、全国の国立病院で使用しているジェネリック医薬品を基準に使用しております。ジェネリック医薬品については、ジェネリック医薬品独特の副作用があるなど、いろいろな問題がありますので、このような対応をしております。

#### <松木会長>

平成21年度は、概ね改革プランに明記されている目標値を達成しておりますので、今年度以降についても、引き続き現状の改革プランを職員一丸となって取り組んでいただきたいと思います。

### (2) 地域に開かれた病院を目指して

自治体病院として当院の目指す姿

目標

地域住民に

- \* 「この地域になくてはならない病院」
- \* 「能登総合病院で治療を受けれてよかった」  
と言われる病院

取り組むべきこと

- \* 当院のことをもっと知ってもらう
- \* 地域住民に積極的に病院運営に参加してもらう

そのために「地域に開かれた病院づくり」への取り組みが必要

- 1 院外情報誌「陽だまり」の全戸配布  
内容については、病院の行事やお知らせ、医師の外来診療予定表など、最新情報の発信。病気の説明や、その予防法など、地域住民に役立つ健康情報の発信など。
- 2 出前講座の開催  
平成19年度より、当院の医師が講師となり、地域住民の要望に応じた内容で、地域に出向き講演をしております。
- 3 病院協議会の開催
- 4 地域ケーブルテレビでの病院番組の放映  
今年度も何番組かを作成予定。
- 5 病院フェスタの開催  
平成21年度初企画をし、地域住民に当院の診療内容や施設を実際に見学・体験してもらい、より親近感をもってもらうために初開催をしました。  
平成22年度につきましては、10月31日（日）に開催しました。

これまでの取り組みを振り返って

地域住民との「信頼関係」の構築のために、今までの取り組みを強化し、新たな取り組みを企画していくことが大事であります。

「地域に開かれた病院」から「地域に信頼され、愛される病院」になっていくための率直な意見を、皆様からいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### <平山委員>

住民の考えている開かれた病院と病院が考えている開かれた病院にギャップがあるように感じます。高齢者のほとんどは能登病院で診て欲しいと思っているのに対し、能登病院では、開業医を紹介するなどの取り組みをしております。開かれた病

院として、患者のギャップを埋めるような取り組みを考えたほうが良いのではないのでしょうか。

→ 私たちの病院は、まず急に病気になったりケガをしたりした救急患者を絶対に診るという原則だけは貫き通そうと思っております。そういうことをすることが一番大切であると考えています。

地域に開業医の先生もいらっしゃいますし、医療資源にも限りがありますので、風邪をひいた場合などは能登病院に行くのではなく、近くの開業医さんのところで診てもらった方が良いと思います。どうしても治らなかつたり、詳しい検査が必要になったときに能登病院で診察するといった医療資源を有効に使う社会になっていければと思います。

しかし、住民の方々には、良い設備や医療器械がある大きな病院の方が安心できるという考えもありますので、そういった所をもっと改善していけるよう、病院としても努力していきたいと考えております。

<佐原委員>

大きな病院が安心であるという考え方があるのであれば、私たちのようなかかりつけ医が、地域の皆様にご理解いただけるように頑張っていこうと思いますし、医師会としてもこのような連携を是非取り組んでいきたいと思っております。

<宮野委員>

保育園側として、皆さんにお話ししたいことがあります。

園で子どもが急に体調を崩した場合（発熱など）、母親が仕事を休めない、核家族で子どもを看ることができない場合があります。当園は、病児保育をしておりますが、やむをえない場合は、母親に配慮をしながら園の方で見ています。

開業医の先生たちをお願いしたいことなのですが、診療時間を6時までではなく、もう少し長くできないでしょうか。母親が仕事を終わってから子どもを迎えに来ると6時過ぎになってしまい、かかりつけ医に行くことができなくなり、能登病院を受診するという風になります。子どもは主治医のところまで診てもらった方が良いと思いますので、難しいこととは思いますが、診療時間を少し長くすることはできないでしょうか。

<佐原委員>

開業医では、時間が遅くなればなるほど、スタッフの関係もあって診療することは難しくなります。逆に母親の職場の方に理解をしていただいて、早く開業医の方に来ていただけるようにしていただいた方が良いと思います。朝から熱があるのに仕事が終わるまで保育園に預けておいて、それから病院へ連れて行くというのは子どもにとってもいい環境ではないと思います。また、日中に診察をした結果、検査が必要となった場合、能登病院にも職員がたくさんいることから、連携がとりやすくなると思います。

<宮野委員>

職場に理解をいただいたとしても、それが何回も続くと、なかなか迎えに来ることが困難になってしまいます。そのような場合、親と連絡を取り合いながら見ています。必要性がある場合は、病院に連れて行くこともあります。子どもにとっては、親が一番です。

<佐原委員>

保育園に病児がいて、母親が病院に連れて行けない場合に、担当の方に連絡し、その方が子どもを連れて診察をするというシステムがあれば良いと思います。

<宮野委員>

能登病院の病児保育室は職員の方のみを対象としていとお聞きしましたが、現在の状況を教えていただけないのでしょうか。

→ 当院の病児保育は、平成22年1月から始めました。看護師さんたちが病児をか

かえて働けなくなってしまうと、ただでさえ足りない看護師さんがますます足りなくなってしまう。その問題を解決するために病児保育室を開設し、小児科病棟のあまり広くないスペースで病児保育を行っております。

今後は、住民の方々からのニーズがあり、スペースが確保できれば、職員以外の病児を受け入れることも検討していきたいと考えております。しかし、今のところは、そういうスペースが全くないのが現状です。

#### <小林委員>

出前講座は、土日または夜間でも行ってもらえるのでしょうか。

→ 土日でも夜間でも大丈夫です。依頼される方と先生の都合が合えばいつでも開催できます。

#### <平山委員>

以前に病院運営に関わった一員として、黒字を達成できたことをとても嬉しく思います。病院改革プランで再編・ネットワーク化、経営形態の見直しなどの項目が含まれておりましたが、精神病院を持った公立病院が黒字になるというのは大変なことだと思い、感心しております。

今後は、精神病院を七尾鹿島広域圏事務組合で運営するのではなく、能登地区全体で運営するなど、能登北部を含めた形で検討していくべきだと思っております。

## 4 その他

担当者より、次回の開催予定及び会議録の校正について案内。

### ●次回の開催時期

平成23年3月中旬頃を予定

### ●次回開催時のテーマ

平成22年度の4つのPTの進捗状況

平成22年度決算見込み状況

平成23年度の予算及び重点施策 等

## 5 閉会あいさつ

### <藤岡病院長>

本日は委員の皆様におかれましては長時間にわたってご審議をしていただきましてありがとうございます。病院フェスタをはじめ、当院は地域に開かれた病院、あるいは住民の皆様のための病院ということを常に念頭におきながら努力をし続けているところでございます。

至らない点をこの協議会でご指摘していただきまして、今後は更に良くしていきたいと考えております。本日は貴重なご意見をたくさんいただきましたので、今後の病院運営にしっかりと活かしていきたいと思っております。

本日は本当にありがとうございました。

(午後4時55分閉会)